

# 新世紀ミュージアム

浜松市楽器博物館は、日本では唯一の公立の楽器博物館として生きた音楽を紹介し、次世代を育成する活動を展開している。「音楽のまち」を名乗る浜松市の音楽文化をささえる貴重な施設である。



日本の楽器コーナーに展示された雅楽の楽器。壁に舞楽の様子を映したモニターが見える(2017年8月)

いる。正面の階段で地階に降りていくと、順番にオセアニア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパの楽器のコーナーが並んでいる。

展示されている楽器群は、多くの人手にとってはあまりなじみがないかもしれない。しかし、展示の所要所にヘッドフォンやモニターが設置され、それらがどのように、どんな音楽を奏でるのかがわかるようになっていく。また一日に何回か、展示されている楽器について職員によるギャラリートークがあり、毎週日曜日には展示室のガイドツアーもおこなわれ、世界の音楽に対して市民が理解を深めるための工夫を随所に見ることが出来る。

この博物館では、ヨーロッパの楽器コレクションにたどりつく前に、世界のさまざまな楽器を見るよう展示コーナーが配置されている。そこには、西洋の音楽も世界の多様な音楽のひとつとして位置付けて理解しようとするこの博物館の明確な意志を読みとること

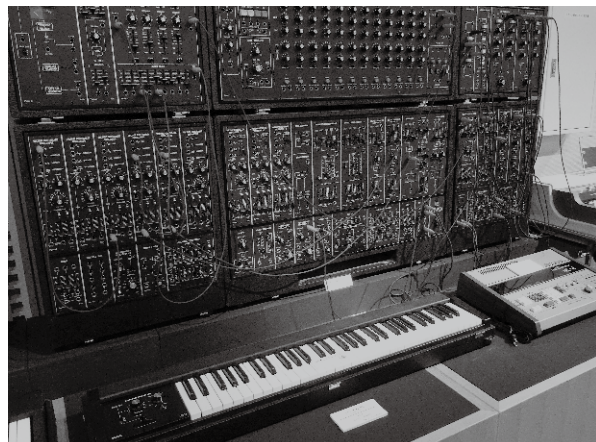
## 世界の楽器を知る

博物館に入り左手を見ると、アジアの楽器コーナーに展示されたインドネシアのガムランなどが目に飛び込んでくる。右手には雅楽の楽器をはじめとする日本の楽器のコーナーがおかれて

は耳にすることのできない貴重な録音が多く、なかには文化庁芸術祭レコード部門大賞を受賞したCDも含まれている。

## 次代の音楽文化のために

浜松市楽器博物館は、二〇〇〇年から、移動博物館と称して、市内の小学校への訪問授業を続けている。楽器を体験することや、映像や写真、絵、音などを用いてその楽器を奏でる人びとについて知るプログラムを提供している。博物館から遠い地域に重点をおき、



上：電子楽器の展示コーナーから(2017年8月)  
下：移動博物館でモンゴルの馬頭琴を体験する生徒(浜松市楽器博物館提供)

## 生きた音楽文化の場

日本には世界のさまざまな音楽を演奏する音楽家がいる。海外から日本にやってきた演奏家もいれば、日本から出かけていつてある音楽を学んで帰ってきた演奏家もいる。西洋楽器にしても、現代の楽器ばかりでなく、歴史的な楽器を専門とする演奏家もいる。また、所蔵資料を楽器として維持するためには、楽器の調律や調整をおこなう知識と技術をもつ者の存在も必要だし、展示をおこなうためには、研究者の協力も必要とされる。

浜松市楽器博物館は、こうした人材職員二人が一組となつて、少ない年で五〜六校、多い年では一〇〜一二校をまわっている。

予算削減の波にさらされる公立博物館で、重要ではあるが地味な活動を続けていくのは簡単ではない。しかし、工夫をこらしてこうした事業を続ける背景には、次代の音楽文化をなう子どもたちを育てたいという理想がある。

浜松市は、ヤマハ、河合楽器製作所、ローランドといった世界に名だたる洋楽器メーカーの本拠であり、浜松国際ピアノコンクールを始めとするコンクールや演奏会、次世代の音楽家育成のための活動、また市民の音楽活動も盛んである。二〇一四年には、ユネスコの創造都市ネットワークに、音楽部門ではアジアで初めて加盟が認められた。

しかし、その「音楽」は、西洋で育まれてきた芸術音楽の系譜を引くものに限定される傾向がある。西洋芸術音楽を日本社会が積極的に受容して自分ものとしてきた歴史には大きな意味がある。しかし、その文化的意義を見出すためには、日本の音楽や世界の他の地域の音楽も知る必要がある。浜松市楽器博物館の努力は、日本において、音楽文化をさらに発展させるひとつの方向性を示しているといえるだろう。



浜松市楽器博物館。浜松駅から約10分の場所に位置する(2017年8月)